

## Oracle Access Governance

Oracle Access Governanceは、クラウド・ネイティブなアイデンティティ・ガバナンスおよび管理（IGA）サービスです。これにより、個人がどのリソースにアクセスできるか、そのアクセス権を持つべきかどうか、アクセス・エンタイトルメントをどのように使用しているかについて、シンプルかつ簡単に把握できます。

企業は、情報の制御を管理し、最小権限アクセスに関する規制遵守要件に対応するために、適切なジャストインタイムのユーザー・アクセス権を適用するという課題に常に直面しています。Oracle Access Governanceを使用すると、ユーザーが持つべきアクセスのタイプに関する即時で規範的なガイダンスを提供することにより、管理者による新しいユーザーのプロビジョニングと離職するユーザーのデプロビジョニングの迅速な実行が簡単になります。さらに、Oracle Access Governanceの機械学習インテリジェンスにより、あらゆるタイプのアクセスを監視して異常な行動パターンを特定し、必要に応じて修正アクションを自動化できます。Oracle Access Governanceにより、適切なアクセス管理を用いた継続的なコンプライアンスがサポートされ、リスクが絶えず評価されてレポートが作成されるため、組織は、手動での大規模で定期的なレビューを回避し、監査対応のコストと労力を大幅に削減できます。

組 込 み の

インテリジェント機能によって、リスクのあるイベントやアクセスが定期的にレビューされ、レビューに関する情報が提供されます。Oracle Access Governanceは、調整の取れたシステムに対するサポートを継続的に追加し、クラウド環境およびオンプレミス環境にわたる可能性がある新しいアプリケーション全体のアクセス制御に対する詳細なインサイトを提供します。

### 背景

従来、あらゆる業界のあらゆる規模の組織が、ユーザー、デバイス、ボット、サービスに対するアクセス・レベルを効率的に管理するという課題に直面してきました。これらの課題には、潜在的なリスクを最小限に抑えながら生産性を向上させること、誰がどのデジタル資産へアクセスできるかについての可視性を維持すること、そのようなアクセスの妥当性を企業のコンプライアンス指針に従って検証することが含まれます。

組織は通常、手動プロセスに依存して、ユーザーや他のアイデンティティに権限を割り当てています。これには多くの場合、アクセスをリクエストするために電子メールやコラボレーション・ツールを通じて他の個人にアプローチしているユーザーが含まれます。ただし、手動プロセスでは、スケーラビリティやコンプライアンスの検証の面で課題が生じます。

また、多くの組織が、アクセス・ルール、エンタイトルメント、権限、ロール、およびポリシーにおいて、手動による定期的なレビューに依存しています。

クラウドの導入とデジタル・トランスフォーメーションのグローバルな増加により、組織はアクセスやエンタイトルメントに関連するセキュリティ上のリスクを認識せざるを得なくなりました。マルチクラウド環境とハイブリッド環境の普及により、組織は、ユーザー・アクセスの正確で自動化されたプロビジョニングおよびデプロビジョニングを効率的に管理するという課題に直面しています。さらに、アクセス・レビューの複雑で時間のかかる性質と、必要なコンテキストの欠如のために、レビュー担当者が個人のアクセスに関して情報に基づいた意思決定を行うことが困難になっています。このように透明性が欠如しているために、多数の組織は“ゴム印承認”のアプローチを採用し、必要以上の権限によるアクセスを取り消さない全面的容認が行われています。これらの問題によって、組織では、デジタル資産への



Oracle Access Governanceは、継続的にアイデンティティを検出してそれらの権限を監視し、使用パターンを学習し、アクセス・レビューとコンプライアンスのプロセスを自動化し、規範的な推奨事項を提供することで、コンプライアンスをサポートし、組織のクラウドおよびオンプレミス環境全体でのアクセスへの可視性を向上させます。

「私たちがクラウド・ネイティブのガバナンス・アーキテクチャの導入を進める際に、Oracle Access Governanceはこの領域の重要なプレーヤーとして現れました。直感的なユーザー・アクセス・レビュー、データ・インサイトによる処方的分析、および自動修正機能が強調された戦略的な設計は、セキュアなIT環境を促進するという私たちの取組みに合致しています。このクラウド・ネイティブのサービスは、将来を見越した私たちのITセキュリティ戦略に完全に合致しており、可能性を探りたいと強く願っています。」

City and County of San Francisco、Department of Technology, IAM and Directory Services、Director、**Chinna Subramaniam氏**

アイデンティティ・アクセス、および必要以上の権限による重要データへのアクセスに関連するリスクの最小化や排除、企業ポリシーの遵守の証明、およびガバナンス・コストの削減が困難になっています。

## 概要

高度なアイデンティティ・ガバナンスおよび管理機能を利用し、生産性を向上させるために、組織は、柔軟なアクセス制御方法を提供するソリューションを評価する必要があります。これらのソリューションは、異常を効果的に特定してセキュリティ上のリスクを軽減するための、処方的分析などのリアルタイム機能を備えている必要があります。そのようなソリューションを評価して実装することにより、組織はセキュリティ態勢を強化でき、アイデンティティ・ガバナンス・プロセスを合理化できます。



Oracle Access Governance—常時稼働のガバナンス

[Oracle Access Governance](#)は、アクセスのリクエストと承認、ロールベースのアクセス制御（RBAC）、属性ベースのアクセス制御（ABAC）、ポリシーベースのアクセス制御（PBAC）など、さまざまなプロビジョニング方法をサポートする包括的なガバナンス・ソリューションです。このサービスは、会話スタイルのユーザー・エクスペリエンスが特徴で、エンタープライズ全体におけるアクセス権限を詳細に可視化できます。これにより、ジョブ・コードやマネージャーの変更によってトリガーされたアクセス・レビューなどの、動的かつ定期的で自動化されたイベントベースのマイクロ認証が容易になります。さらに、ほぼリアルタイムのアクセス・レビューが可能になり、特定されたレベルのリスクに基づいて、レビュー担当者がエンタイトルメントの受入れまたはレビューを行うためのオプションを含む詳細な推奨事項が提供されます。

Oracle Access Governanceは、[Oracle Identity Governance](#)と共にハイブリッド・デプロイメント・モデルで稼働することもできます。ハイブリッド・モデルを選択した組織は、コンプライアンスやデータ・レジデンシの要件に対処するための、オンプレミスのアイデンティティおよびアクセス管理スイートの一部を維持しながら、クラウド・ネイティブのサービスで使用可能な高度な機能を利用できます。

「クラウドベースのガバナンス・ソリューションへ移行したことで、Oracle Access Governanceから、ユーザー・アクセス・レビューの効率化、アクセス権限のエンタープライズ規模での可視化、移行作業ゼロの実現、およびインサイトに基づく分析のための魅力的な選択肢が得られました。このソリューションには、当社のITセキュリティと効率を向上させる可能性があり、クラウド・ガバナンス・プラットフォームを探索している組織にとって価値のあるソリューションになると考えています。」

Cummins Inc.、Identity and Access Management、IT Director

Monica J. Field氏

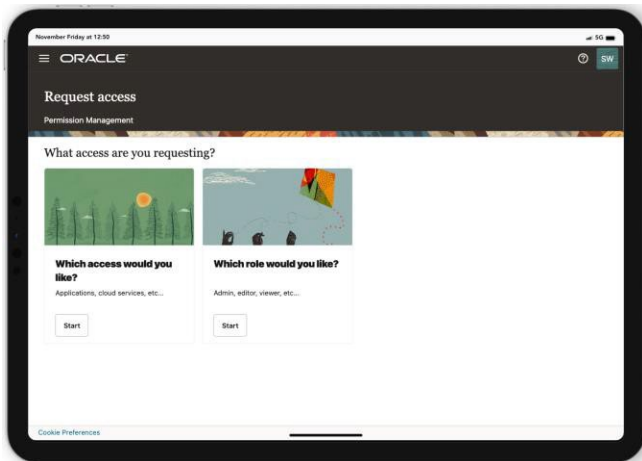
「クラウドに移行しようとしている組織が、Oracle Access GovernanceなどのIdentity-as-a-Serviceソリューションを利用して、より強力な分析主導のセキュリティを統合することには非常に価値があると考えます。このソリューションにより、Deloitteの専門家は、顧客がガバナンスへの既存の投資を保護する支援をし、マルチクラウド環境をサポートしながら、俊敏性、スケーラビリティ、および分析を備えた、強化されたセキュリティを提供できます。」

Deloitte、Cyber and Strategic Risk、Advisory Senior Manager、

Kashif Dhatwani氏

## おもな利点

- **簡素化されたセルフサービス**：Oracle Access Governanceは、エンドユーザーが自身または他者のアクセス・バンドルまたはロールをリクエストできるようにするセルフサービス機能を提供すると同時に、ヘルプ・デスクがアカウントのライフサイクルを管理できるようにします。この簡素化されたプロセスにより、効率が向上し、ユーザーはガバナンス・アクティビティにアクティブに参加できます。



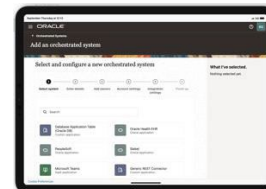
簡素化されたセルフサービス

- **簡素化されたアイデンティティ・オーケストレーション**：Oracle Access Governanceは、ローコードの統合機能を提供し、アプリケーション所有者が、アプリケーションとサービスをAccess Governanceに迅速かつ効率的にオンボーディングできるようにします。これにより、アイデンティティ・オーケストレーション・プロセスが合理化され、時間短縮とコスト削減の両方が実現します。
- **自動アクセス制御**：Oracle Access Governanceはアイデンティティ収集をサポートします。これにより、属性ベースのアクセス制御が可能になります。この機能により、アイデンティティに関連する特定の属性に基づいた、アクセス・バンドルのファイングレイン制御が可能になります。さらに、Oracle Access Governanceには、ロールベースのアクセス制御が組み込まれています。これは、特定のロールに基づいてアクセス権を定義して管理できるようにする機能です。これらのアイデンティティ収集とロールは、アクセス権を付与して管理するためにポリシーベースのアクセス制御でも使用できます。比類ないアカウント認証は、さまざまな管理対象システムの孤立アカウントや不正アカウントの検出に役立ちます。
- **アクセス・ガードレール**：Oracle Access Governanceを使用すると、ユーザーは、アクセス・バンドルに関する制約を定義できるため、属性検証や権限確認などの前提条件に準拠しやすくなります。これらの制約は、さまざまなシナリオで適用できます。たとえば、特権的アクセス権を付与する前にトレーニングを修了することを義務付ける、機密システムへのアクセスを許可する前に身分を検証する、管理者のみが機密レポートへのアクセスをリクエストできるようにする、などです。これらのアクセス・ガードレールは、特定の職務分掌（SoD）ルールを確立することで、アプリケーション所有者を保護します。また、Oracle Access Governanceは、Oracle Fusion Cloud Risk Management and Complianceに定義されているセルフサービスベースのリクエストに対して簡単なユーザー・エクスペリエンスを提供します。SoDルールを使用し、アクセス・リクエスト承認タスクの一環として潜在的な競合も発生させます。

## おもな機能

アプリケーション・カタログOracle Access Governanceには、以下のような堅牢な機能セットが含まれます。

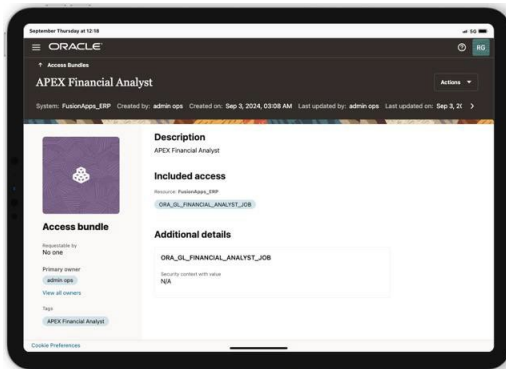
- **クラウド・ネイティブ・サービス**：OCIネイティブのサブスクリプション・サービスです。
- **直感的なユーザー・エクスペリエンス**：会話型アプローチを使用して直感的なユーザー・エクスペリエンスを提供します。
- **インタラクティブ・ダッシュボード**：このダッシュボードは、ユーザーが重要なタスクに焦点を当てるのに役立つ、価値あるインサイトを提供します。
- **エンタープライズ規模のブラウザ**：この分析主導のダッシュボードを使用すると、特権ユーザーは、すべてのアクセス情報を詳細に可視化できます。
- **アイデンティティ・オーケストレーション**：相関ルールと変換ルールが含まれる、ローコードのウィザードベースの統合アプローチを使用した、迅速なアプリケーション・オンボーディングをサポートします。
- **簡単な統合**：ダウンロード可能なコンテナベースのエージェント、RESTful API、フラット・ファイルを介した特別な統合と汎用統合を幅広く提供します。



アプリケーションカタログ

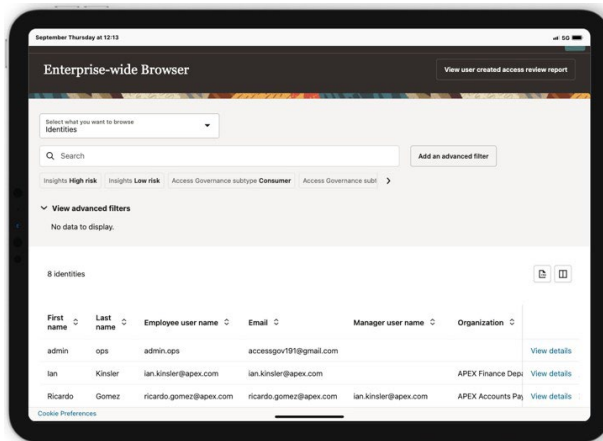
- **幅広い統合**：OCI、Oracle Cloud Applications、Oracle EHR、Oracle DatabaseなどのさまざまなOracleワークロード、およびMicrosoft AD、Entra ID、MS SQL、IBM DB2、SAP Ariba、S4 HANA、ARCON PAMなどのOracle以外のワークロードを対象としたアイデンティティ・オーケストレーションを提供します。
- **簡単なアクセス・リクエスト**：セルフサービスベースのリクエストに対して簡単なユーザー・エクスペリエンスを提供します。

- **柔軟な委任アクセス制御** : Oracle Access Governanceは委任された所有権を容易にしているため、アプリケーション所有者がアカウントやエンタイトルメントを含むアクセス・バンドルを監督する一方で、企業はアイデンティティ収集を管理できます。この委任により、Oracle Access Governance内のアクセス権の効率的かつ合理的な管理がサポートされ、関係者間のコラボレーションと説明責任が促進されます。



さまざまな権限を使用したアクセス・バンドルの構成

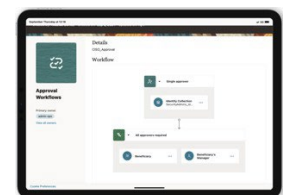
- **エンタープライズ規模のアクセスの可視化** : Oracle Access Governanceは、組織全体のユーザー・アクセスを可視化し、特定のアプリケーション、リソース、サービスにどのユーザーがアクセスしているかを把握します。マネージャーは、チームのアクセス・マップをレビューできるため、チーム・メンバーのアクセス権限を把握して監督できます。個々のユーザーも自身のアクセス権限を表示できるため、自身のアクセス権に対する透明性と認識が得られます。



エンタープライズ規模のアクセスの可視化

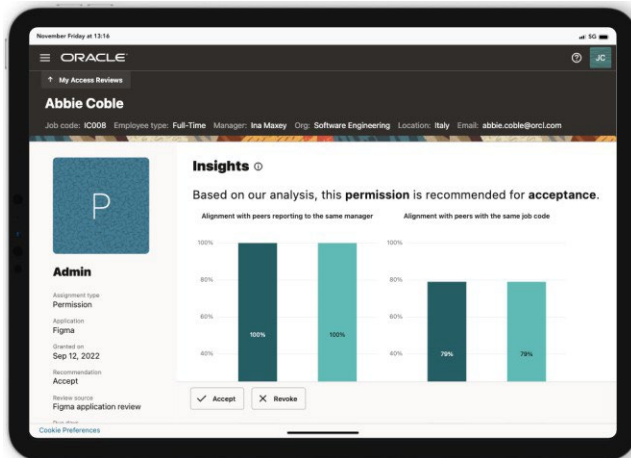
- **認証効率の向上** : Oracle Access Governanceにより、組織では実践可能なインサイトと処方的分析が可能になり、ユーザーの生産性向上に必要なアクセスの包括的な理解が容易になります。職務または組織の変更などによってトリガーされたイベントベースの認証やタイムラインベースの認証により、アクセスのレビュー担当者はアクセス権限の更新に必要なアクションを迅速に起こすことができます。ポリシーおよびグループのレビューは、最小限の権限付与の原則をさらに適用するのに役立ちます。

- **自動アクセス制御** : さまざまなシナリオでのアクセスの自動化に使用できる複数のアクセス制御方法とアクセス・ガードレールを提供します。
- **アクセス・バンドル・マイニング** : 調整の取れたシステム内の権限とその割当てに基づいてアクセス・バンドルの作成を自動化します。
- **実践可能なアクセス・レビュー** : アクセス・レビュー・プロセスを簡素化し、処方的分析に基づく実践可能なインサイトを提供して、マネージャーが情報に基づく意思決定を実行できるようにします。
- **マイクロ認証** : SoRに変更があった場合にのみトリガーされるインテリジェントなイベントベースのアクセス・レビューを容易にします。タイムラインベースのマイクロ認証は、重要なマイルストーンに基づいてアクセスをタイムリーにレビューするのに役立ちます。孤立アカウントや不正アカウントが検出されたときに、比類ないアカウント認証がトリガーされます。
- **コードレス・ワークフロー** : アクセス制御およびガバナンスのために軽量のコードレス・ワークフローを提供します。



ワークフロー・エディタ

- **構成可能な通知** : ネイティブまたはOCIの通知配信サービスによって配信できるカスタマイズ可能な通知が含まれます。
- **包括的なIT監査とレポート作成** : 簡素化された監査機能



および監視機能と、柔軟なレポート作成機能が含まれます。



分析ダッシュボード

処方的分析を用いたアクセス制御の適用

- 場所を問わないガバナンス**：Oracle Access Governanceは、エンタープライズ・アプリケーションと、Oracleワークロードおよび非Oracleワークロードを含むIaaS、PaaS、およびSaaSワークロードの全体にガバナンスを提供します。Oracle Access Governanceは、簡素化されたガバナンスを実現し、リアルタイムのセキュリティ、コンプライアンス、および運用効率の向上を促進するために、Oracleワークロードに特化して構築されています。さらに、複数のOracle以外のワークロードを対象として同じ機能が拡張されています。
- 拡張された分析**：Oracle Access Governanceは、調整の取れた複数のシステムからデータを収集し、アイデンティティおよびアクセスの更新をイベントとしてOracle Cloud Infrastructure (OCI) Events Serviceにリアルタイムで公開します。これにより、調整の取れたソースから、その他のソースからのデータも使用している可能性があるビジネス・インテリジェンス・ツールおよび分析サービスへのデータのシームレスなフローが可能になり、分析の強化が実現します。
- 規制遵守の強化**：Oracle Access Governanceは、重要/高リスクなデータへのアクセス権限保持者の識別に関連付けられた規制要件（米国サーベンス・オクスリー法、21 CFR Part 11、Gramm-Leach-Bliley、HIPAA、GDPRなど）を実施/保証できます。
- コスト削減**：Oracle Access Governanceでは、組織はクラウド・ネイティブのアイデンティティ・ガバナンス・サービスを使用できます。このサービスの効率的で使いやすいダッシュボード、コードレス・ワークフロー、ウィザードベースのアプリケーション・オンボーディングにより、ITコストの削減と時間の節約が実現します。

## まとめ

Oracle Access Governanceは、組織において、アクセス制御の自動化、エンタープライズ規模のアクセスの可視化、情報に基づいた、アクセスに関する意思決定、および全体的なコンプライアンス目標のサポートに役立ちます。組織は、クラウド・ネイティブのサービスによって現在のアイデンティティ・ガバナンスおよび管理機能を拡張することで、より詳細なインサイトを得ることができます。詳しくは、Oracle Access Governance [製品ドキュメント](#)または[Oracle Access Governance Web ページ](#)を参照してください。

---

## Connect with us

+1.800.ORACLE1までご連絡いただくか、[oracle.com](#)をご覧ください。北米以外の地域では、[oracle.com/contact](#)で最寄りの営業所をご確認いただけます。

[blogs.oracle.com](#) [facebook.com/oracle](#) [twitter.com/oracle](#)

Copyright © 2025, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved. 本文書は情報提供のみを目的として提供されており、ここに記載されている内容は予告なく変更されることがあります。本文書は、その内容に誤りがないことを保証するものではなく、また、口頭による明示的保証や法律による黙示的保証を含め、商品性ないし特定目的適合性に関する黙示的保証および条件などのいかなる保証および条件も提供するものではありません。オラクルは本文書に関するいかなる法的責任も明確に否認し、本文書によって直接的または間接的に確立される契約義務はないものとします。本文書はオラクルの書面による許可を前もって得ることなく、いかなる目的のためにも、電子または印刷を含むいかなる形式や手段によっても再作成または送信することはできません。

Oracle、Java、MySQLおよびNetSuiteは、Oracleおよびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称はそれぞれの会社の商標です。

IntelおよびIntel XeonはIntel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARC商標はライセンスに基づいて使用されるSPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD、Opteron、AMDロゴおよびAMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devicesの商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。0120